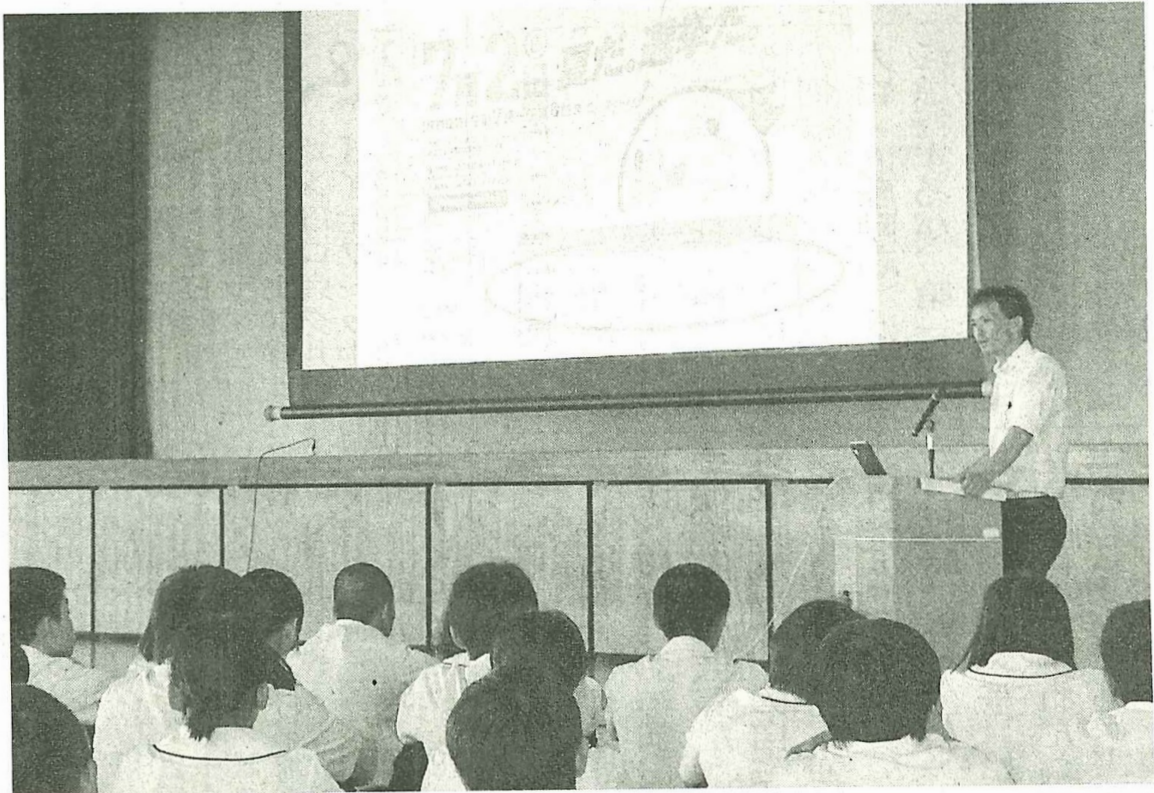


津名高生 投票意義考える

若者が投票に行く意義を生徒たちに
説く市選管職員（県立津名高で）



淡路市選管が出前授業

7月2日投開票の知事選と淡路市議選に向け、同市選挙管理委員会が21日、県立津名高で、若者が投票することの意義を理解してもらう出前授業を開いた。

生徒会役員選挙が行われた機会に選管職員が訪問した。職員はまず、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられた後の参院選や淡路市長選で18、19歳の投票率が低

かったと説明。そのうえで「政治家は多くの票を得ようとして、投票率が高い高齢者の意見を反映した政策を掲げるようになる。若者の声を政治に届けるには、自分たちの世代の投票率を上げて政治家の目に留める必要がある」と呼びかけた。

併せて投票の手順や期日前投票、有権者は電子メールによる選挙運動が禁止されていることなどを伝えた。

3年、藤野^{なぎさ}凪紗さん(18)は「棄権すると若い人の意見が取り入れられなくなるという指摘が、心に刺さった」。今月末に18歳になる、廣田雄大さんは「選挙権を得たらぜひ投票に行きたいと、ずっと思っていた。淡路島に若者が残れる政策に注目して、誰に投票するかを決めたい」と話した。

7月2日に投票される
県知事選、淡路市議選を前
に、同市選挙管理委員会は
21日、津名高校で選挙のル
ールや投票の方法を学ぶ出
前授業を開いた。

若い世代の投票を促そう
と企画。この日、同校であ
った生徒会役員選挙の立会
演説会終了後に行い、全校
生約590人が受講した。

市選管の村上和也書記が
「2016年の参院選、淡
路地域の10代の投票率は33
・56%で但馬地域に次ぐ低
さ。4月の市長選は29・57
%だった」と報告。「当選
を目指す候補者は、投票率
の高い年齢層向けの政策ば
かり打ち出す」とし、「投
票に行かなければ若者の意
見が政治に反映されず、結
果的に損をすることにな
る」と力説した。候補者情
報を知る方法や選挙違反な
どについても説明した。

知事選、市議選に投票を 淡路市選管が津名高で授業

3年藤野凧紗さん(18)は
「説明が分かりやすく心に
刺さった。投票に行く必要
性を強く感じた」。今月29
日に18歳になるという3年
廣田雄大さん(17)は「若者
が島外に出て行かないよう
な政策を持つ候補に投票し
たい」と話していた。

(内田世紀)



淡路市選挙管理委員会職員の話
を聞く生徒たち＝津名高校